

もの言う牧師のエッセー 第329話

「 栃ノ心初優勝 」

大相撲初場所で西前頭3枚目の栃ノ心がついに初優勝を飾った。6年ぶりの平幕優勝に加え、ジョージア出身力士として初めて賜杯を抱き、男泣きして喜びをかみ締めた。

振り返れば2011年、彼は力士が着用すべき浴衣を着ずにラフな恰好で外出し、門限を破ったなどとして春日野親方がゴルフクラブの柄で殴ったなどとメディアを騒がせたことがあり、その後しばらく“不良”のイメージがついて回った。

2013年7月の名古屋場所では、右膝前十字靭帯断裂などの大けがを負い、翌日から休場、8月下旬に手術を受け2ヶ月間入院、全休が3場所続き、元小結が幕下55枚目まで転落し、心が折れそうになった。稽古場では十両以上の関取に許される白まわしから黒まわしへ。待遇も変わり、ちゃんこでは給仕にまわり、関取の世話係になり、「何度も辞めようと思った。」

「まだダメだ。もう一場所休め」とはやる気持ちを抑える親方の言うことに従い、ひたすらに歩くことから始め、リハビリに励み、そのかいあって十両の地位で4場所連続優勝を果たし一気に幕内まで復活、今日の栄光をつかんだ。栃ノ心と同じく、かつてどん底から這い上がったダビデは謳った。

「私を滅びの穴から、泥沼から、引き上げてくださった。」

そして私の足を巖の上に置き、私の歩みを確かにされた。」 詩篇40篇2節。

と。己の未熟さゆえに間違いを犯し、周りから叩かれることは珍しくない。何をやってもうまく行かない時や、奈落の淵へ突き落とされることもある。だが覚えよう。神を信じる者は、死から復活したイエスのごとく必ず立ち上がる。栃ノ心のように人間離れした努力をする必要もない。ただ神の言うことに従い、地道に忍耐を学び、聖霊から得る神の力で誰でも出来る。

2018-3-30

